

事務事業マネジメントシート(令和 6年度実績と令和 7年度計画)

令和 7年 9月12日更新

事務事業名		市民センター維持管理事業			<input type="checkbox"/> 安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 <input type="checkbox"/> 「こどもまんなか社会」の構築 <input type="checkbox"/> 産業の共生による市経済の持続的発展			
総合計画体系	政策	3	教育の健幸		所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	渡辺 良輔
	施策	10	生涯学習の推進		所属課	生涯学習課	担当者名	清原 展彦
	業務分野	37	生涯学習施設(環境)の整備		所属班	生涯学習班	(内線)	1506
予算科目		会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	合志市民センター条例
		一般	10	5	3	10827		
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 6年度で終了 <input type="checkbox"/> 6年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	施設利用者が各市民センター(御代志・黒石・須屋・泉ヶ丘・野々島・栄)を快適に利用できるように維持管理を行う。施設の多くは、経年劣化が進んでいる。については、中長期計画に基づき改修を行う必要がある。維持管理・運営について指定管理制度等も検討していく。  平成30年3月 野々島市民センター建築をおこなった。 令和2年2月 黒石市民センター建築をおこなった。 令和2年度~ みどり館を高齢者支援課より生涯学習課に移管した。 令和2年度 旧黒石市民センターを解体。解体後は体育館をスポーツ振興班へ移管。
【業務の流れ】	①消耗品補給、蛍光灯・電灯交換、輪転機インク、マスター、施設管理用消耗品補充 ②保守管理(コピー機、消防用設備、電気設備、エレベーター、清掃業務、機械整備、樹木管理、除草業務、自動ドア、空調、自家発電、貯水槽、防火対象物、リース等) ③施設の修繕・工事 ④避難所用品の備蓄 ⑤管理員・受付事務員等の配置
【主な予算費目】	報酬、職員手当等、旅費、需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費、印刷製本費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費、備品購入費

(1)事務事業の振り返り・計画

①6年度事務事業の成果・実績

【目的】市民の連携と交流を図り、明るく住みよい近隣社会の形成を目的として、合志市民センターを設置する。  
 【内容】施設利用者が市民センターを快適に利用できるよう維持管理を行う。  
 【実績】各市民センターに会計年度任用職員の配置、空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、自家発電設備保守点検委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、自動ドア保守点検業務委託、貯水槽保守点検業務委託、機械整備業務委託、昇降機保守点検業務委託、来客用マットリース、券売機リース、各施設修繕を行った。栄市民センターの空調・照明・給水設備の改修工事と施工監理委託を行った。訴訟代理委託料については、調停申立書作成中のため支払いがなかった。

②7年度計画(次年度に計画している主な内容)

各市民センターに会計年度任用職員の配置、空調機械保守点検業務委託、清掃管理業務委託、施設予約端末保守業務委託、自家発電設備保守点検委託、電気工作物保守点検業務委託、建築設備定期検査業務委託、自動ドア保守点検業務委託、貯水槽保守点検業務委託、機械整備業務委託、昇降機保守点検業務委託、来客用マットリース、券売機リース、各施設修繕、御代志市民センター空調設備改修設計委託

③予算の主な増減の理由

栄市民センター空調・照明・給水設備等改修工事費の減

成果指標

ア 利用団体数

(単位)

団体

データ取得方法

(2)成果指標・総事業費の推移

成果指標	単位	4年度	5年度	6年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込	
ア	団体	19,272	19,272	17,000	17,087	17,000	17,000	17,000	17,000	
事業費	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円	4,100	87,800	88,400	69,600	10,200	134,100	291,800	92,700
	その他	千円	9,954	10,218	11,958	10,473	10,700	10,700	10,700	10,700
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	76,152	99,614	104,341	96,834	95,031	108,509	125,773	103,969
(A) 事業費計	千円	90,206	197,632	204,699	176,907	115,931	253,309	428,273	207,369	

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

建設当初に導入した設備をそのまま使用しており、故障した場合、製造が終了しているものが多く修繕ができない場合があるので設備更新を行う必要がある。

(4)今後の事業の方向性

廃止 縮小 事業のやり方改善 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)